

平成 2 6 年度

運営に関する計画  
自己評価  
(中間評価)

大阪市立横堤中学校

平成 2 6 年 1 0 月 2 2 日

## 目 次

1	学校教育目標	P. 1
2	総括シート	
	学校運営の中期目標	P. 2
	中期目標の達成に向けた年度目標	P. 3
3	目標別シート	
	視点・学力の向上	
	教務部	P. 4
	国語科	P. 5
	社会科	P. 5
	数学科	P. 7
	理科	P. 8
	英語科	P. 8
	音楽科	P. 10
	美術科	P. 11
	保健体育科	P. 12
	技術家庭科	P. 13
	道徳心・社会性の向上	
	人権・特別支援教育委員会	P. 14
	生活指導部	P. 16
	進路指導委員会	P. 17
	健康・体力の保持増進	
	保健体育科	P. 18
	体育行事委員会	P. 19
	健康教育部	P. 20
	1年	P. 21
	2年	P. 22
	3年	P. 23

### 評価基準

A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

## 平成26年度 大阪市立横堤中学校 学校教育目標



### <学校教育目標>

- I 自ら考え、自ら学ぶ、知性豊かな生徒を育成する。
- II 自然や人間を愛する、情操豊かな生徒を育成する。
- III たくましい体力と充実した気力ある生徒を育成する。
- IV 基本的生活習慣を実践する生徒を育成する。

### <総合目標>

人間尊重の教育を基盤に、基礎的・基本的な学力の確実な定着を図るとともに、生徒一人ひとりのよさや可能性を伸ばすことにより、知・徳・体の調和のとれた「生きる力」をはぐくむ。

### <具体的目標>

- 1 互いに違いを認め合い、思いやりを持って協力し合う、いじめを許さない集団づくりを行う。
- 2 確かな学力の定着を図るとともに、一人ひとりの個性や創造性を伸ばし、自ら学び、自ら考え、問題解決できる力を育てる。
- 3 生涯にわたり運動やスポーツに親しみ、心身ともに健康で活力のある生活が送られるよう、自ら運動に取り組む習慣や能力を育てる。
- 4 教育相談活動を充実させるとともに、家庭との連携をより密にして、自ら規律ある生活習慣が実践できる力を育てる。
- 5 小学校との連携を密にして、一貫性のある効果的な指導に努める。

## 1 学校運営の中期目標

### 現状と課題

- 定期テスト、実力テストにおける平均正答率 3 割以下の生徒は、3 年生において減少傾向にあるものの、1・2 年生では十分に成果をあげることはできなかった。個々の生徒の課題やつまずきを把握し、学習内容や教材、授業形態を工夫することにより、徐々に成果は見られてきているが、今後、生徒に考えさせる場面、発表する場面を多く取り入れた授業展開をさらに工夫し、単に計算力や記憶力を問うだけではない「なぜ」や「プロセス」を大切にする授業への改善を図る必要がある。
- 昨年度より「横堤中学校生徒 10 カ条」を掲げて取り組み、基本的生活習慣の改善や夢や目標を持って学習できる生徒が増加してきている。しかし、学年が下がるほど、達成状況が低く、すべての学年において、基本的生活習慣の定着や規範意識、道徳心を高められるよう取組を進める。
- 全国体力・運動能力、運動習慣調査の結果において、「立ち幅跳び」「ボール投げ」が全国・大阪市平均を下回っていることから、基礎的な体力づくりとともに、個々の生徒が自分の体を効率的に動かせるよう技術指導の改善に取り組むひつようがある。また、朝食を毎日食べている生徒が、全国・大阪市平均より低く、「早寝・早起き・朝ごはん」を毎日の生活の中で意識させる必要がある。

### 中期目標

#### 【視点 学力の向上】

- ① 平成 27 年度全国学力・学習状況調査における平均正答率を、知識・活用とも全国平均より 3 ポイント向上させる。（カリキュラム改革関連）
- ② 平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「授業はわかりやすい」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を 75%以上にする。（カリキュラム改革関連）

#### 【視点 道徳心・社会性の向上】

- ① 平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を 80%以上にする。（カリキュラム改革関連）
- ② 平成 27 年度末の保護者アンケートにおける「学校は、基本的生活習慣が身につくよう指導している」の項目について「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答える保護者の割合を 85%にする。（マネジメント改革関連）

#### 【視点 健康・体力の保持増進】

- ① 平成 27 年度全国体力・運動能力、運動習慣調査における全種目の平均の記録を全国平均以上にする。（カリキュラム改革関連）
- ② 平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「運動やスポーツ、体育的行事に積極的に活動している」の項目について「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答える生徒の割合を 80%にする。（カリキュラム改革関連）
- ③ 平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「朝食を毎日食べていますか」の項目について「できた」と答える生徒の割合を、平成 27 年度全国学力・学習状況調査における全国平均を上回る。（カリキュラム改革関連）

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【視点 学力の向上】

- ① 定期テスト、実力テストにおける平均正答率 3 割以下の生徒を、いずれの学年も平成 25 年度より減少する。 (カリキュラム改革関連)
- ② 生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について「そう思う (どちらかといえばそう思う)」と答える生徒の割合を平成 25 年度より向上させる。 (カリキュラム改革関連)

### 【視点 道徳心・社会性の向上】

- ① 生徒アンケートにおける「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を平成 25 年度より向上させる。 (カリキュラム改革関連)
- ② 横堤中学校生徒 10 カ条の振り返りアンケートにおけるすべての項目について、「できた」「どちらかといえばできた」と答える生徒の割合を 80%以上にする。 (カリキュラム改革関連)

### 【視点 健康・体力の保持増進】

- ① 平成 25 年度の全国体力・運動能力調査において全国平均を下回った種目の平均値を平成 25 年度より向上させる。 (カリキュラム改革関連)
- ② 生徒アンケートにおける「運動やスポーツ、体育的行事に積極的に活動している」の項目について「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答える生徒の割合を 75%以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- ③ 生徒アンケートにおける「朝食を毎日食べていますか」の項目について「できた」と答える生徒の割合を 80%以上にする。 (カリキュラム改革関連)

## 3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立横堤中学校 平成 26 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【視点 学力の向上】</b> ① 定期テスト、実力テストにおける平均正答率 3 割以下の生徒を、いずれの学年も平成 25 年度より減少する。 （カリキュラム改革関連） ② 生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を平成 25 年度より向上させる。 （カリキュラム改革関連）	

< 教 務 部 >

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【区分 習熟度別少人数授業の充実】</b> 習熟度別少人数授業等の指導方法の改善を行うことで、基礎・基本的な学習内容の確実な定着を図る。 （カリキュラム改革関連） <hr/> <b>指標</b> ・定期テスト・実力テストにおける平均正答率 3 割以下の生徒を、いずれの学年も平成 25 年度より減少させる。	<b>B</b>
<b>取組内容②【区分 その他（授業内容の改善）】</b> I C T機器の活用、学習内容を身近な問題と関連させるなど、生徒が興味関心を持つ教材を作成することにより授業内容の改善を図る。 （カリキュラム改革関連） <hr/> <b>指標</b> 生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を 7 2 %以上にする。	<b>B</b>
<b>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</b>	
① 1 学期終了の時点で定期テストにおける平均正答率 3 割以下の生徒は平成 25 年度と比べると、2 年生で <b>4 教科が減少、4 教科が増加</b> 、3 年生では <b>5 教科が減少、3 教科が増加</b> という結果（H25 年度学年末と H26 年度 1 学期期末の比較）になった。また 3 年生の実力テストでは <b>2 教科が減少、3 教科が増加</b> （H25 年度第 2 回実力と H26 年度第 2 回実力の比較）という結果になった。 ② 1 学期に実施した生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」とする生徒の割合は、国語科では <b>1 年生が 93.9%、2 年生が 58.6%、3 年生が 43%</b> （平均 <b>65.2%</b> ）数学科では <b>1 年生が 67.5%、2 年生が 87.8%、3 年生が 52.9%</b> （平均 <b>69.4%</b> ）英語科では <b>1 年生が 83.4%、2 年生が 63.0%、3 年生が 56.1%</b> （平均 <b>67.5%</b> ）という結果であり学年が上がるにつれ、内容が難しくなることもありどの教科において「わかりやすい」とする生徒数が減少していく現実である。	
<b>今後への改善点</b>	
①平成 25 年度と比較して平均正答率 3 割以下の生徒が増加した教科では減少させていく指導工夫を行い、減少した教科においてもより減少させていく授業内容や指導方法の改善を図っていく必要がある。各テストによる平均値が異なるため、最終的には年間を通した平均値での比較方法を取るようになるが、全教科において基礎的内容の確実な定着を図る工夫を行って行く必要がある。 ②学年が上がるにつれ「授業がわかりやすい」とする生徒が減少していく現実を踏まえ、難しい内容でも「わかりやすい授業」となるような指導方法の改善を図っていく必要がある。	

< 国 語 科 >

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
<div>取組内容①【区分 習熟度別少人数授業の充実】</div> <div>文法や作文などの授業を習熟度別少人数授業で行い、基礎・基本の定着を図る。さらに、応用問題にも対応できるよう、きめ細かい指導の充実を図る。 （カリキュラム改革関連）</div> <div>指標</div> <div>・定期テスト・実力テストにおける平均正答率3割以下の生徒を、いずれの学年も平成25年度より減少させる。</div>		B
<div>取組内容②【区分 その他（国語教育の充実）】</div> <div>授業方法の改善を行うことで、基礎・基本の定着を図る。 （カリキュラム改革関連）</div> <div>指標</div> <div>・定期的に小テストを行い、正答率3割以下の生徒を10%以下にする。</div> <div>・授業内での文法の復習を繰り返し行い、定期テスト・実力テストの文法分野における正答率3割以下の生徒を15%以下にする。</div>		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<div>【年度目標】について</div> <div>文法や作文などの授業を習熟度別少人数授業で行い、基礎・基本の定着を図ることができた。</div> <div>【取組内容】について</div> <div>① 減少・上昇どちらでもない状況だといえる。</div> <div>今後も、習熟度別授業を活用しつつ、更なる改善をはかる。</div> <div>② 文法のテストにおいて3割以下の生徒が15%だった。</div> <div>今後も、授業方法の改善を図り基礎基本の定着をはかる。</div>		
今後への改善点		
<div>・教科のアンケートで「国語の学習は楽しい」という項目で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒が6割以上いた。しかし他の4割の生徒はそう思っていないのが実状なので、今後の授業の改善を図っていきたい。</div>		

< 社 会 科 >

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 その他（基礎学力の定着）】</p> <p>社会科の基本的な学習事項を定着させるために、自主学習教材を活用し、生徒の学習意欲を高める。（カリキュラム改革関連）</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとに小テストや確認テストを実施し、正答率3割以下の生徒を10%以下にする。</li> <li>・自主学習のために単元ごとの復習プリントやワークを活用する。</li> <li>・復習プリント、ワークや繰り返しノートなどを利用し、繰り返し演習させる。</li> </ul>	B

<p>取組内容②【区分 その他（授業内容の改善）】</p> <p>単元ごとに評価資料の収集に努め、「目標に準拠した評価」を効果的に行える授業づくりに取り組む。（カリキュラム改革関連）</p> <p>I C T機器を活用し、社会科への興味関心を持たせる。（カリキュラム改革関連）</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小テストや確認テストだけでなく、授業プリントやワークシート、新聞等を評価資料として用い、「目標に準拠した評価」方法の定着を図ることにより、生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を平成 25 年度より向上させる。</li> <li>・授業の発問を工夫し、基本語句を繰り返し提示することにより基本的な語彙を定着させ、平均正答率 3 割以下の生徒を平成 25 年度より減少させる。</li> <li>・I C T機器等で資料や地図、写真、映像を提示し、生徒に学習内容を視覚的に印象づけるように工夫することにより、生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を平成 25 年度より向上させる。</li> </ul>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>①各学年ともに、小テスト・単元テストを定期的実施するとともに、単元ごとの復習プリントやワークを積極的に活用することで、社会科の基本的な知識・重要語句の定着を図っている。その結果、2 年生は、昨年度、2 学期中間が全体の 36%、学年末が 33%と平均正答率 3 割以下の生徒が最も多かった時期に比べ、今年度は 1 学期中間が全体の 21%、1 学期期末が全体の 18%、2 学期中間が全体の 22%と、昨年度と比べて平均正答率 3 割以下の生徒は減少している。3 年生は、昨年度、2 学期中間が全体の 36%と平均正答率 3 割以下の生徒が最も多かった時期に比べ、今年度は 1 学期中間が全体の 21%、1 学期期末が全体の 12%、2 学期中間が全体の 14%と、昨年度と比べて平均正答率 3 割以下の生徒は減少している。一方で、1 年生は、平均正答率 3 割以下の生徒は 1 学期中間が全体の 9 %、1 学期期末が 11%、2 学期中間が 17%と少しずつ増加している。</p> <p>②各学年において、資料活用の技能を高めるために、授業プリントやワークシートの中にグラフや地図を多く入れたり、また、生徒が自分自身の考えや意見を表現できる発問を入れたりすることで、「目標に準拠した評価」の評価資料を収集している。また、1 年生では、パネル写真や実物教材を、さらに 2,3 年生では、I C T機器等で資料や地図、写真、映像を提示し、生徒に学習内容を視覚的に印象づけるように工夫している。</p>	
今後への改善点	
<p>・1 年生は、定期テストの回数を重ねるにつれて、平均正答率 3 割以下の生徒が少しずつ増加している。2,3 年生は、平均正答率 3 割以下の生徒は、昨年度と比べると減少しているものの、毎回のテストで 3 割以下の点数をとる生徒の現状は大きく変わっていない。学習意欲に欠け、ワーク等の家庭学習や提出物の提出状況等も不十分であることが要因であると考えられる。今後、小テストの再テストやテストのやり直し等を積極的に行い、社会科の基本的な知識・重要語句の定着を図っていくとともに、I C T機器等を活用し、学習に集中できない生徒の興味・関心を引くような「わかりやすい」授業づくりを進めていきたい。</p>	



< 数 学 科 >

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 その他（基礎学力の定着）】</p> <p>個々の理解度に応じた学習支援を行い、基礎基本の定着を図る。</p> <p style="text-align: right;">（カリキュラム改革関連）</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元ごとの復習に、問題集や自作のプリントを用い、基礎的な内容の反復練習を行うことにより、正答率3割以下の生徒を10%以下にする。</li> <li>・ 定期テストにおける、平均正答率30%以下の生徒の割合を、平成25年度より減少させる。</li> <li>・ 家庭学習用の教材を週に1回以上作成することにより家庭学習の定着を図り、生徒アンケートにおける「家庭での学習が定着している」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を平成25年度より向上させる。</li> <li>・ 定期テスト前に放課後の学習会を複数回行う。</li> </ul>	B
<p>取組内容②【区分 その他（授業内容の改善）】</p> <p>教材やテストを工夫することにより、数学への興味・関心を高める。</p> <p style="text-align: right;">（カリキュラム改革関連）</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 習熟度別分割授業を定期的実施することで、基礎基本の定着を図ると同時に、段階に応じた発展的な内容にも取り組む。</li> <li>・ 観点別評価をふまえた定期テストや小テスト、ワークシートを作成する。</li> <li>・ 数学への興味関心を高める身近な題材を教材にする。</li> <li>・ 上記の取組により、生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を平成25年度より向上させる。</li> </ul>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 単元ごとに復習プリントや問題集などの教材を用いたり、小さな単元ごとに小テストを実施したり、授業で演習の時間を多く確保したりすることで、基礎的な内容の定着を図っている。また、入試対策の問題にも取り組ませることより、応用力の強化にも取り組んでいる。家庭学習用の教材を用いて、家庭での自主学習の習慣をつけさせている。</p> <p>② 習熟度別授業を実施することで、個々の進度に応じた指導を行っている。</p> <p>観点別評価を行うために、定期テストや小テスト、ワークシートなどを作成するに当たり、観点に応じた問題を工夫して作成している。</p>	
今後への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元ごとの、復習プリントや問題集などの教材を精選し、一人ひとりの理解度の応じた学習環境を整えていく。</li> <li>・ 授業の導入や教材を工夫することで、興味関心を引く授業を展開する。</li> </ul>	

< 理 科 >

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【区分 その他（学力の向上）】 身の回りの事象を、科学的に理解するため、基礎学力の向上を図る。 (カリキュラム改革関連)		B
指標 ・定期テスト、実力テストにおける平均正答率 3 割以下の生徒を、いずれの学年も平成 25 年度より減少する。		
取組内容②【区分 その他（学力の向上）】 視聴覚教材を積極的に活用する。 (カリキュラム改革関連)		B
指標 ・視聴覚教材を積極的に取り入れ、よりわかりやすい授業を展開し、生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を平成 25 年度より向上させる。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について 30%未満の生徒の変動は、現 2 年生、現 3 年生共にやや減少傾向にあるが、学習している領域によって難易度に違いがあるため変動も大きく、どちらともいえない状況にある。 【取組内容】について ① 増加、減少、どちらともいえない状況にある。 今後に向けて、平均正答率の更なる向上をはかる必要がある。 ② 視聴覚教材を取り入れるように努力しているが、十分な活用ができていない。 新理科室の器具の更なる整備をはかり、今後はより一層の活用をはかる必要がある。		
今後への改善点		
・基本的な内容の理解をより徹底させる必要がある ・新理科室の一層の整備が急務である。		

< 英 語 科 >

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 その他（学力の定着）】 繰り返し練習や授業方法の改善を行うことで、基礎・基本の定着を図る。 (カリキュラム改革関連)</p> <hr/> <p>指標 ・単元ごとの単語や文法事項の小テストや繰り返し練習を行い、正答率 3 割以下の生徒を 20%以下にする。 ・習熟度別少人数授業を効果的に行い、個に応じた学習支援を行い、生徒アンケートにおける「英語の授業はわかりやすい」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を平成 25 年度より向上させる。</p>	B

<p>取組内容②【区分 その他（授業内容の改善）】</p> <p>C-NETやICT機器を活用することで、英語への興味・関心を持たせる。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>「目標に準拠した評価」を効果的に行える授業方法の改善を図る。 (カリキュラム改革関連)</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・C-NETを活用し、「聞く力」「話す力」の向上を図ることにより、英語能力判定テストの「リスニング」における平均正答率を平成25年度より向上させる。</li> <li>・ICT機器を活用し、英語学習への興味・関心を高め、生徒アンケートで「英語のは好き」「英語の授業は楽しい」と答える生徒の割合を平成25年度より向上させる。</li> <li>・「目標に準拠した評価」方法の定着を図ることで、英語能力判定テストの4分野における平均正答率を平成25年度より向上させる。</li> </ul>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 1学期の定期テストにおける文法事項の理解において、正答率3割以下の生徒を3年生では16.1%、2年生では11.1%、1年生では9.3%にすることができており、目標を達成している。</p> <p>習熟度別少人数授業を計画的に実施しており、1学期の生徒アンケートで「授業が分かりやすい」とする生徒が1年で83.4%、2年で63.0%、3年で56.1%であり全学年平均が67.5%になっている。今後の取り組みで平成25年度の最終アンケートの73%以上になるように改善を図りたい。</p> <p>② C-NETを計画的に活用した授業を行っており、1年生では会話表現力の育成、3年生では自己表現力の育成を目指した取り組みを実践できている。2年生は3学期に実施の予定である。</p> <p>ICT機器の活用面では3年生ではデジタル教科書を効果的に活用した授業を行い、1年生ではパワーポイントで作成した教材をプロジェクターで生徒にほぼ毎時間見せる方法を効果的に活用し生徒の興味・関心を高める授業改善を図っている。また、3年生ではskypeを活用した国際交流の取り組みを通して「英語を使ったコミュニケーション力」を高める実践を行っている。</p> <p>「目標に準拠した評価」を意識し、「評価と指導の一体化」を図った授業スタイルはほぼ全学年において取り組めるようになっており、今後4観点の力をバランスよく向上させて行きたい。</p>	
今後への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後1, 2年の「チャレンジテスト」や3年の「能力判定テスト」を意識し、英検の問題集などを活用した取り組みを行い、語彙、文法、読解、リスニング力の向上を図っていききたい。</li> <li>・3年生で計画しているオーストラリアの中学校とのskypeを活用した国際交流の取り組みを英語科の共同した取り組みとして行い、今後も継続した取り組みとして定着させていききたい。</li> <li>・「目標に準拠した評価」に関する教科内の共通理解を図り、評価基準や評価方法をより妥当で信頼できるものにしていききたい。</li> </ul>	

< 音 楽 科 >

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 その他（基礎学力の定着）】</p> <p>プリントや、授業内容を工夫することにより、わかりやすい授業づくりに努める。 (カリキュラム改革関連)</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プリントなどを使用して学習内容の要点を明確にし、復習を促す。</li> <li>・観点別評価を行うための教材を開発し、それに応じたプリントを作成する。</li> <li>・音楽知識と実技を関連付け、実技を行う中で効果的に解説を加える。</li> <li>・上記の取組により、生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を平成 25 年度より向上させる。</li> </ul>	B
<p>取組内容②【区分 その他（授業内容の改善）】</p> <p>教材を工夫することにより、音楽への興味関心を高める。(カリキュラム改革関連)</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年 2 回以上研修等に参加し、生徒が興味・関心を持ちやすい教材を開発する。</li> <li>・授業の導入部では教材の提示方法を工夫する。</li> <li>・教材ごとに目標を明確にし、生徒が学習内容を正しく把握できるようにする。</li> <li>・上記の取組により、生徒アンケートにおける「音楽の授業に興味や関心や意欲を持つようになった」と答える生徒の割合を平成 25 年度より向上させる。</li> </ul>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 合唱コンクールなど、実技を伴う活動の中で、プリントなどを使って実技と音楽知識の関連付けを行った。その際に使用するプリントには、観点別評価を行うための項目を入れて、評価につながるようにした。</p> <p>② 生徒の日常生活に沿った音楽や、実技を導入に使用することで、生徒がその教材に興味を持ちやすくなった。</p> <p>以上のことにより学校アンケートでは平成 25 年度に比べて、「授業が分かりやすい・どちらかといえば分かりやすい」「音楽の授業に興味や関心や意欲を持つようになった」と回答した生徒の割合が増加した。</p>	
今後への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、観点別評価を行うための教材や、ワークシートを開発している。しかし、学校アンケートの「適切な評価」の項目について、音楽科は平成 26 年度の学校平均値よりやや低い数値となっている。評価を点数化しにくい教科であるからこそ、保護者・生徒が納得できる評価規準を定めたい。</li> <li>・今年度に行った評価を元に、各教材について評価規準を明文化しておき、次年度には評価がスムーズに行えるようにする。</li> </ul>	

< 美術科 >

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 その他（基礎学力の定着）】</p> <p>自主学習や振り返り学習ができるようなプリントを活用し、基礎学力の定着を図る。 (カリキュラム改革関連)</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下描きや授業のまとめを理解できるようなプリントを活用する。</li> <li>・授業の中で振り返りや学習確認をしながら繰り返し学習できる工夫をする。</li> <li>・上記の取組により、生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を平成 25 年度より向上させる。</li> </ul>	B
<p>取組内容②【区分 その他（授業内容の改善）】</p> <p>発問や板書、視覚的な資料を工夫して、興味関心を持たせる。 (カリキュラム改革関連)</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書資料や写真など、視覚的に印象付けるように工夫する。</li> <li>・創作活動の注意点やポイントを理解させるプリントを作成する。</li> <li>・授業ごとの点検票を作成し、各自で自己評価・まとめをさせる。</li> <li>・上記の取組により、生徒アンケートにおける「美術の授業に興味や関心や意欲を持つようになった」と答える生徒の割合を平成 25 年度より向上させる。</li> </ul>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 授業を進めるために必要な下描きは、参考資料が必要なため事前に授業で知らせて準備させている。忘れた生徒に対しては、学校にある資料集などで題材をまとめ上げ、作品制作に間に合わせるように努めている。</p> <p>② 生徒は、授業前後に点検票の記入の際に授業予告と振り返りができる記入欄に書いて、その時間の達成状況を確認できるようにしている。学年によりバラつきはあるが、授業の課題が把握できるようになってきている。</p> <p>引き続き生徒の状況を見ながら進めていきたい。</p>	
今後への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・さらに、各学年の生徒の様子に応じた学習内容を探っていくと共に改善を図りたい。</li> <li>・基礎学習や振り返り学習ができるように下描きを持ち帰り、家庭で取材をさせることで授業内容を充実しつつ目的を持った内容にすることができるよう、引き続き継続させていきたい。</li> </ul>	

< 保健体育科 >

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 その他（基礎知識の定着）】</p> <p>単元ごとに小テストを実施し生徒の理解状況を把握するとともに、到達度の低い項目については、繰り返し取り組むことにより、基礎的知識の習得を図る。 (カリキュラム改革関連)</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期テストにおける平均正答率 3 割以下の生徒を、いずれの学年も平成 25 年度より減少させる。</li> </ul>	C
<p>取組内容②【区分 その他（授業内容の改善）】</p> <p>副教材やワークシート、視覚教材を積極的に利用して、よりわかりやすい授業を展開する。 (カリキュラム改革関連)</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を平成 25 年度より向上させる。</li> </ul>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 学期期末テストの平均正答率 3 割以下の生徒は、2 年生 19.8% (昨年度より 7.2% 増)、3 年生 1.8% (昨年度より 9.4% 減) だった。単元ごとに小テストを実施し、授業内容の確認を定期的におこなったが、2 年生は結びつかなかった。繰り返し小テストを実施し、正答率の低い内容においては再度伝達していく。</p> <p>② 平成 25 年度におこなった生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合は 82.9% であったが、今年度は 83.9% と、1.0% 向上した。</p>	
今後への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、小テストをおこない基礎的知識の伝達を図っていく。2 年生においては、学習意欲の低下がみられる生徒に対してのアプローチを工夫していく必要がある。</li> </ul>	



< 技術家庭科 >

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【区分 その他（基礎学力の向上）】 プリント学習により基礎知識の習得を図る。 (カリキュラム改革関連)		B
指標 ・プリント作成において、いずれの学年も C 評価の割合を平成 25 年度より減少させる。 ・定期テストの基礎問題において、いずれの学年も平均正答率を平成 25 年度より上げる。		
取組内容②【区分 その他（技術の向上）】 実習により基礎技術の定着を図る。 (カリキュラム改革関連)		B
指標 ・作品制作において、未完成の割合を平成 25 年度より減少させる。 ・作品制作において、いずれの学年も C 評価の割合を平成 25 年度より減少させる。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
① プリントや復習問題の活用などの反復学習により、基礎知識の習得を図っている。 ② 3 年間で系統立てた実習を行うことで、学年が上がるごとに実習の完成度が上がり、基礎技術が定着してきている。 具体例や模型を使った説明を行うことで生徒が理解を深め、より完成度の高い作品を製作することができた。		
今後への改善点		
・引き続き、基礎知識・技術の定着を図る指導の工夫を行っていく。また、特に意欲的に取り組めない生徒に対して指導の工夫を図る必要がある。		

大阪市立横堤中学校 平成 26 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【視点 道徳心・社会性の向上】</b> ① 生徒アンケートにおける「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を平成 25 年度より向上させる。 （カリキュラム改革関連） ② 横堤中学校生徒 10 カ条の振り返りアンケートにおけるすべての項目について、「できた」「どちらかといえばできた」と答える生徒の割合を 80%以上にする。 （カリキュラム改革関連）	

< 人権・特別支援教育委員会 >

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【区分 人権を尊重する教育の推進】 道徳心社会性の向上を図り、系統的な道徳の授業に取り組む。 （カリキュラム改革関連） <hr/> 指標 ・横堤中学校生徒 10 カ条の振り返りアンケートにおけるすべての項目について、「できた」「どちらかといえばできた」と答える生徒の割合を 80%以上にする。 ・道徳の取組などをまとめた通信を発行する。	B
取組内容②【区分 道徳教育の推進】 豊かな体験活動の推進により、生徒一人ひとりの感性や情操を育む。 （カリキュラム改革関連）（マネジメント改革関連） <hr/> 指標 ・プロの芸術家やトップアスリート、企業、大学や地域・関係諸機関と連携した出前授業や講演会等の体験活動を実施することにより、生徒アンケートにおける「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を平成 25 年度より向上させる。	B
取組内容③【区分 特別支援教育の充実】 集団生活をする中で個々に合った能力を伸ばし、社会性や自立心を高める。 （カリキュラム改革関連） <hr/> 指標 ・学校・学年行事を活用し、他の生徒との交流の機会を多く持つ。 ・特別支援学級で社会性を身につけるための自立訓練に取り組む。 ・全教職員による特別支援学級の生徒の理解を図るための校内研修を実施する。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 各学年の状況に応じて道徳の学習に取り組んでいる。学年通信に道徳の取組のまとめを載せ、学校・家庭へ共有化を図った。 ② トップアスリート、企業、大学や地域・関係諸機関と連携した出前授業や講演会等の体験活動を実施した。今後も、芸術鑑賞や出前授業などの体験活動を計画している。 7 月 4 日 1 年地域体験学習「地域の歴史や昔の生活を知ろう」横堤老人クラブ 7 月 7 日 1 年地域体験学習「伝統文化に触れよう」横堤女性会	



7月 9日 水泳特別授業 オリンピック・シンクロチーム銀メダリスト巽樹理さん  
 7月29日 大学教授出前授業・スポーツ実技講習会 関西大学・河端隆志教授  
 9月 5日 防災訓練・地震、津波を想定した避難訓練  
 「自衛隊の災害派遣活動」自衛隊大阪地方協力本部中央隊 荒巻靖隆隊長  
 9月13日 3年高校出前授業  
 大手前・淀川工科・鶴見商・大阪産大附属・大阪桐蔭・金蘭会  
 9月18日 Skypeによる国際交流「モロッコの中学生と英語で対話」英語科  
 9月29日 進路講話「社会人心得セミナー」菅公学生服株式会社人事部 千綿智恵さん  
 10月18日 親子人権学習会「報道カメラマンの仕事をとおして」  
 毎日新聞編集局 山田尚弘さん

- ③ 職業訓練センターなど校外に出での自立訓練を行い、校内だけではなく他校との交流を通して社会性を高めることに取り組んだ。

#### 今後への改善点

今後も、芸術鑑賞・出前授業などの体験活動の機会を通して、感性や情操を育む。また継続して、各学年で実態に合わせた道徳の取組を行っていく。  
 特別支援教育は今後も、自立訓練や社会性の向上を継続的に取り組む。

<生活指導部>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【区分 道徳教育の推進】 横堤中学校生徒10カ条を基に、基本的生活習慣と道徳心の育成に取り組む。 (カリキュラム改革関連)		A
指標 ・学期ごとに学校生活を振り返らせ、それぞれの項目について「できた」「どちらかといえ ばできた」と答える生徒の割合を平成25年度より向上させる。		
取組内容②【区分 道徳教育の推進】 時間を守り、余裕をもって行動する意識を高める。 (カリキュラム改革関連)		B
指標 ・登校時に予鈴遅刻チェックを行い、前年度より予鈴遅刻者数を減らす。 ・チャイム着席を徹底し、学期に1回強化週間を行う。		
取組内容③【区分 道徳教育の推進】 「あいさつ」が習慣付くよう指導する。 (カリキュラム改革関連)		B
指標 ・横堤中学校生徒10カ条の振り返りアンケートにおける「時間を守り、遅刻をゼロにする」 の項目について、「できた」「どちらかといえ ばできた」と答える生徒の割合を80%以上にする。		
取組内容④【区分 問題行動への対応】 教職員間の共通理解を図り、チーム指導を推進する。		B
指標 ・毎日の情報交換を密に行い、生活指導部へ情報の集約を行う。 ・生徒の実態把握、問題行動への対策・予防策の共通理解を図るため、学年・公務分掌 を超えた「生活指導ミーティング」を各学期に3回実施する。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
① 現状では10項目中8項目「できた」「どちらかといえ ばできた」という生徒が昨年度より上 昇した。 ② 予鈴がなってからギリギリに来る生徒が多い。 ③ 「できた」「どちらかといえ ばできた」と答える生徒は85%に上昇した。 ④ 日々学年にだけでなく、密に情報交換が行われている。		
今後への改善点		
・項目9と10においては前年度より3%下まわったので、人を思いやる気持ちや、感謝の気持 ちを持つことができる指導を常日ごろから心がける。 ・今後、チャイム着席強化週間を風紀委員会を中心に行っていく。 ・決まった生徒が遅刻する傾向があるので、学級担任と連携をとり指導していく。 ・毎日、職員間の連絡は密にとれている。「生指ミーティング」が行えない月があるので、 日程調整を工夫し毎月実施できるよう行っていく。		

< 進路指導委員会 >

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 キャリア教育の推進】</p> <p>職場体験学習に取り組み、学校から社会への移行のために必要な基礎的資質や能力をはぐくむ。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>指標</p> <p>・生徒アンケートにおける「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を平成 25 年度より向上させる。</p>	B
<p>取組内容②【区分 進路指導】</p> <p>将来の夢や目標に基づいて、自分の進路について考えさせるとともに、「進路だより」を通して進路にかかわる情報を生徒・保護者に積極的に発信する。 (カリキュラム改革関連)(マネジメント改革関連)</p> <p>指標</p> <p>・保護者アンケートにおける「学校は、将来の進路や職業などについて、適切な指導を行っている」の項目について「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答える保護者の割合を平成 25 年度より向上させる。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 2 年生では、1 1 月の職場体験に向け、事前指導として外部より講師を招き、職場体験の心構えについての学習を行った。また 3 年生では 1 学期には進路説明会、2 学期には出前授業、高校説明会、進路講話を実施し将来の夢や目標について考えさせている。生徒アンケートにおける「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答える生徒の割合については、1 学期 6 8 %、2 学期 7 4 %と着実に向上している。</p> <p>② 3 年生の進路指導では、「進路便り」や 1 1 月に実施する 2 回目の保護者向け進路説明会を通じ、進路決定に向け教員、生徒、保護者と共に取り組んでいく。</p>	
今後への改善点	
<p>・3 年生は進路選択の時期を迎え、将来の夢や目標をもとに進路決定ができるように指導していく必要がある。</p>	

大阪市立横堤中学校 平成 26 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【視点 健康・体力の保持増進】</b> ① 平成 25 年度の全国体力・運動能力調査において全国平均を下回った種目の平均値を平成 25 年度より向上させる。 （カリキュラム改革関連） ② 生徒アンケートにおける「運動やスポーツ、体育的行事に積極的に活動している」の項目について「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答える生徒の割合を 75%以上にする。 （カリキュラム改革関連） ③ 生徒アンケートにおける「朝食を毎日食べていますか」の項目について「できた」と答える生徒の割合を 80%以上にする。 （カリキュラム改革関連）	

< 保健体育科 >

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
<div>取組内容①【区分 その他（基礎体力の向上）】</div> <div>補強運動を固定化せずに、「瞬発力」や「巧緻性」を養うようなトレーニングを工夫する。<div>（カリキュラム改革関連）</div></div> <div>各学期に「ハンドボール投げ」「立ち幅跳び」の測定を実施し、前回の記録と比較することで生徒の体力の向上を図る。<div>（カリキュラム改革関連）</div></div>		—
<div>指標</div> <div>・平成 25 年度の全国体力・運動能力調査において全国平均を下回った種目の平均値を平成 25 年度より向上させる。</div>		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
① 1 年生はまず固定化した補強運動をこなせるように取り組んだ。2、3 年生は固定化した補強運動に課題がある生徒もいるので、克服できるようサポートしている。		
今後への改善点		
・これまでの補強運動に加えて、さまざまな動きを工夫したトレーニングを取り入れて、今後の体力向上に向けて工夫を続けていきたい。		

< 体育行事委員会 >

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【区分 体育的活動の充実】 生徒主体の運動会や各種スポーツ大会を実施し、体育的行事の活性化を図る。 (カリキュラム改革関連)		A
指標 ・運動会等の振り返りアンケートにおいて、「積極的に参加できた」「楽しかった」などの項目について「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答える生徒の割合を80%以上にする。		
取組内容②【区分 体力向上の支援】 トップアスリートや専門的な技術指導者、大学教授による実技講習会を実施し、子どもの運動に対する関心・意欲を高めることにより、体力の向上を図る。 (カリキュラム改革関連)		B
指標 ・講習会の振り返りアンケートにおいて、「楽しかった」「興味がわいた」などと答える生徒の割合を80%以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
① 運動会において、アンケートを実施した結果「積極的に参加できた」と答えた生徒が95%、「楽しかった」と答えた生徒が90%いた。運動会に対して生徒の9割以上が積極的に参加し、楽しくできている。		
② 関西大学教授を講師に招いて、「基礎体力づくりの実技指導」を実施し、子どもたちの運動に対する関心・意欲を高めた。 シンクロナイズドスイミング日本代表の巽樹里さんを講師に招いて、「運動に対する関心・意欲を高める」ことを目的に水泳の実技指導を実施した。アンケートの結果、「楽しかった」と答える生徒が83%、「以前よりも水泳に興味を持った」と答える生徒が83%いた。		
今後への改善点		
・トップアスリートや専門的な技術指導者の講習会を経て、部活動や保健体育の授業のなかで子どもの体力向上をさらに図っていきたい。		

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 健康な生活習慣の確立】</p> <p>早寝・早起き・朝ごはんを軸に、規則正しい生活習慣を確立させる。 (カリキュラム改革関連)</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「早寝・早起き・朝ごはん」を生活の中で意識できるよう、「ほけんだより」や「食育通信」を毎月発行する。</li> <li>・学期ごとの学校生活振り返りアンケートにおいて、生活習慣にかかわる3項目について、「できた」「どちらかといえばできた」と答える生徒の割合を平成25年度より向上させる。</li> </ul>	B
<p>取組内容②【区分 食育】</p> <p>朝ごはんを食べることの重要性を生徒に啓発し、朝ごはんを食べようとする意識を身につけさせる。 (カリキュラム改革関連)</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健委員会で朝ごはんについて啓発する活動に取り組む。</li> <li>・生徒アンケートにおける「朝食を毎日食べていますか」の項目について「できた」と答える生徒の割合を80%以上にする。</li> </ul>	C
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 2学期9月の学校生活振り返りアンケートを昨年3学期のものと比較すると、就寝・起床時間については同じリズムで生活することができている生徒の割合が向上している。</p> <p>② 「朝食を毎日食べている」生徒の割合はあまり改善できていない。ほけんだより・食育通信については毎月発行し、朝食をとることの大切さやバランスの良い食生活について啓発を行っている。</p>	
今後への改善点	
<p>・後期保健委員会の活動において「朝ごはんウィーク」を設定し、朝ごはんを食べる重要性について啓発していく予定である。委員会活動と連動して、ほけんだより朝ごはん号を発行し、朝食摂取に対する意識を身につけさせたい。</p>	

< 1 年 >

年度目標	達成 状況
<p>【視点 道徳心・社会性の向上】</p> <p>① 生徒アンケートにおける「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を平成 25 年度より向上させる。 （カリキュラム改革関連）</p> <p>② 横堤中学校生徒 10 カ条の振り返りアンケートにおけるすべての項目について、「できた」「どちらかといえばできた」と答える生徒の割合を 80%以上にする。 （カリキュラム改革関連）</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗 状況
取組内容①【区分 特別活動】 仲間を知り、大切にするための学級・班活動を推進する。 （カリキュラム改革関連） 指標 ・全ての学級で班活動に取り組む。（清掃活動・学校給食の円滑な実施。） ○生徒アンケートで、「仲間と気持ちよく生活できている」の項目において、「できている」「どちらかといえばできている」と回答する生徒の割合を70%以上にする。		B
取組内容②【区分 その他（基本的生活習慣の育成）】 横堤中学校10ヶ条を意識できるように指導し、時間やきまりを守らせる指導を根気よく続ける。 （カリキュラム改革関連） 指標 ○生徒アンケートで、「きまりを守っている」の項目に対する回答において、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答する生徒の割合を8割以上にする。 ○朝の遅刻を通年で1パーセント以下にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
① 生徒アンケートで、「仲間と気持ちよく生活できている」の項目において、「できている」「どちらかといえばできている」と回答する生徒の割合は、90%で達成できている。 学校給食・清掃活動については、当初戸惑いが見られたが、現在はこなせている。しかし、食事を取り始める時間が遅く、その為終了時間も遅い。早めるよう指導継続中である。 ② 横中10カ条振り返りアンケートでは、「授業を大切にする」の項目と、「大きな声であいさつ、丁寧な言葉遣い」の項目の双方で78.5%と80%を割っている。すべての項目が80%を超えるよう今後も指導を継続する。「きまりを守っている」の項目に対する回答において、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答する生徒の割合は91%、朝の遅刻は1%以下で達成できている。		
今後への改善点		
・昼食指導は、生徒全体に、手洗いに早く行くよう「声掛け」を各教師が増やしていく必要がある。 ・1年生の緊張が取れ、気持ちの緩む2学期を乗り切れるよう、生徒観察を増やし、声掛け、はたらきかけ等を継続・工夫する必要がある。 ・大幅遅刻する生徒への対応・指導を継続しなければならない。		



年度目標	達成状況
<p>【視点 道徳心・社会性の向上】</p> <p>① 生徒アンケートにおける「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答える生徒の割合を平成 25 年度より向上させる。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>② 横堤中学校生徒 10 カ条の振り返りアンケートにおけるすべての項目について、「できた」「どちらかといえばできた」と答える生徒の割合を 80%以上にする。 (カリキュラム改革関連)。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 キャリア教育の推進】</p> <p>職場体験学習に取り組み、学校から社会への移行のために必要な基礎的資質や能力をはぐくむ。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>指標</p> <p>・生徒アンケートの「将来の夢や目標を持っている」の項目において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を、平成 25 年度より向上させる。</p>	—
<p>取組内容②【区分 学校・家庭・地域の連携の推進】</p> <p>学校から積極的に情報を発信するとともに、生徒の良さや課題を伝え、共通理解を図る。 (カリキュラム改革関連) (マネジメント改革関連)</p> <p>指標</p> <p>・学年通信を月 1 回発行する。</p> <p>・保護者アンケートの「教育活動の様子を学校だよりやホームページ等で積極的に発信している。」の項目において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える保護者の割合を、平成 25 年度より向上させる。</p>	B
<p>取組内容③【区分 いじめへの対応】</p> <p>違いを認め合い、思いやりを持って協力し合う、いじめを許さない集団づくりを行う。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>指標</p> <p>・学年全体で班活動に取り組み、生徒アンケートの「仲間とともに喜び感動し、共感できる」「いじめを許さない」の項目において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合を、平成 25 年度より向上させる。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 職場体験学習は 10 月から実施していく予定である。</p> <p>② 定期的に学年通信を発行し、情報の発信に努めている。</p> <p>③ 5 月の校外学習、9 月の一泊移住をはじめ、様々な場面で班活動、集団での活動に取り組ませた。</p>	
今後への改善点	
<p>・相互を理解し、思いやりの気持ちをもって切磋琢磨できる集団の育成に向け、続けて指導していきたい。</p>	



< 3 年 >

年度目標	達成 状況
<p>【視点 道徳心・社会性の向上】</p> <p>① 生徒アンケートにおける「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答える生徒の割合を平成 25 年度より向上させる。 (カリキュラム改革関連)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【区分 進路指導】 進路についての取組等の学習を通じて、将来の夢や目標について考えさせる。 (カリキュラム改革関連)	B
指標 ・生徒アンケートにおける「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答える生徒の割合を75%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 1学期には進路説明会、2学期には出前授業、高校説明会、進路講話を実施し将来の夢や目標について考えさせている。生徒アンケートにおける「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答える生徒の割合については、1学期68%、2学期74%と着実に向上している。	
今後への改善点	
・いよいよ進路選択の時期を迎え、将来の夢や目標をもとに進路決定ができるように指導していく必要がある。	